

ドイツ語における日本語由来の名詞の性について

北村 健一

(欧米第一課程ドイツ語専攻)

キーワード：ドイツ語、日本語、名詞の性、語末に「道」を持つ語

0. はじめに

ドイツ語の名詞は、男性・女性・中性という3種類の文法上の性を持っている。他の言語から借用された名詞においてもそれは例外ではなく、ドイツ語に入った時点でいずれかの性を持つこととなる。

本稿では、ドイツ語における日本語由来の名詞の性が、どのような要因によって決定されているのかを明らかにしていくことを目指す。

なお、本稿中のドイツ語名詞の性の表示に関しては、橋本 (1989: 1196)の「性は、主として冠詞類によって明示される。」という記述にならう、男性名詞の前に *der*、女性名詞の前に *die*、中性名詞の前に *das* を付けることによってこれを表示する。また、ドイツ語をはじめとする外国語の隣に「」でくくって記した訳は筆者によるものである。

1. 先行研究

卒業論文では、Wegener (1995), Duden (2001), Duden (2005a), 田中 (2005)、古浦 (1990)の5つを挙げたが、本稿では紙面の都合上、卒業論文に関係の深い Wegener (1995)と古浦 (1990)の一部を挙げる。

1.1. Wegener (1995)

Wegener (1995)では、ドイツ語の名詞の性の割り当ては、*Semantische Regeln*「名詞の意味に基づく規則」、*Morphonologische Regeln*「形態音韻的規則」、*Phonologische Regeln*「音韻に基づく規則」の3つの規則に基づいて行われるとしている。3つの規則については、表1にまとめた。そしてこれら3つの規則は以下のような階層性を持ち、2つ以上の規則が適用できる場合、より上位の規則に従って性が割り当てられる。

Phonologische Regeln 音韻に基づく規則	<	Semantische Regeln 名詞の意味に基づく規則	<	Morphonologische Regeln 形態音韻的規則
----------------------------------	---	-----------------------------------	---	------------------------------------

1.2. 古浦 (1990)

古浦 (1990)はイタリア語に関する研究であるが、日本語由来の名詞の性の決定を扱っているという点で本稿に深く関連するため、ここで取り上げる。古浦 (1990)では日本文学のイタリア語訳書37冊と、イタリア語で書かれた日本文化紹介書8冊を資料とし、その中に現われた日本語由来の名詞716種の性について分析しているが、本稿ではその内容のうち

卒業論文と関連の深い、名詞の男性・女性の比率についてのみ取り上げる。

1.2.1. 名詞の男性・女性の比率

日本語からの借用語 645 語¹と、イタリア語の名詞一般²の双方の性の比率を古浦 (1990) が対比した結果を、表 2 にまとめた。イタリア語の名詞一般では男性・女性の比率に極端な差は無いのに対し、日本語からの借用語では男性が圧倒的多数を占めていることから、古浦 (1990) は、「日本語からの借用語には男性名詞が極端に多い」(古浦 1990: 71) と判断している。

表 1: Wegener (1995) のドイツ語の名詞の性割り当て規則

Semantische Regeln 「名詞の意味に基づく規則」	(1) 自然の性に基づく性の割り当て der Sohn 「息子」…男性、die Mutter 「母親」…女性等 (2) 既存の語からの類推による割り当て das Metall 「金属」→ das Eisen 「鉄」、das Silber 「銀」等
Morphonologische Regeln 「形態音韻的規則」	(1) 名詞の性を決定する派生接辞 -ig → 男性名詞 der König 「王」 -heit → 女性名詞 die Krankheit 「病気」 (2) 擬似派生語尾(派生接尾辞ではないが、性の決定に有効に働いていると考えられる語尾) -e で終わる名詞…女性名詞が多い
Phonologische Regeln 「音韻に基づく規則」	名詞の音韻によって、一定の性に割り当てられる傾向 単音節(一音節)の名詞…男性名詞が多い等

表 2: 古浦 (1990) の性の比率の対比

性	日本語からの借用語		イタリア語の名詞一般	
	見出し語数	%	見出し語数	%
男性	542	84.0%	416	53.3%
女性	76	11.8%	365	46.7%
ゆれているもの	27	4.2%	0	0.0%
計	645	100.0%	781	100.0%

(古浦 1990: 70)より筆者作成)

2. 問題提起と本研究の目的

Wegener (1995)をはじめとする先行研究の基準をもとに、ドイツ語における日本語由来の名詞の性が、いかなる要因によって割り当てられているかという点についての調査・分析を目指す。また Wegener (1995)によれば、ドイツ語の名詞の性は形態音韻、意味、音韻の3つの要素によって決定されるとあるが、古浦 (1990)では、日本語からの借用語のイタリア語名詞の性は男性を基本とすると述べられており、ドイツ語における日本語由来の名詞においても、同様の傾向が現われる可能性が考えられるため、その検証も行う。

¹ 「琵琶法師」、「芸者」、「足軽」などの、男と女、雄と雌という自然の性に基づいて名詞に性が生じている有性名詞 71 語は、性の大前提を表す名詞であるため、この調査の対象からは除かれている。

² 古浦 (1990)では、イタリア語辞典としては定評のある Zingarelli, N. (1983) *Vocabolario della lingua italiana*. Bologna: Zanichelli を資料として、乱数表を用いて 30 ページを抜き取ったものをイタリア語一般として扱っている。

3. 日本語由来の名詞の収集

本稿で資料として用いたのは、ドイツ語の辞書として実績のある Duden の、以下の 2 種類である。

- Duden (2005b) “*Das große Wörterbuch der deutschen Sprache 10 Bände auf CD-ROM*”³
- Duden (2007a) “*Bd.5, Das Fremdwörterbuch Buch und CD-ROM*”⁴

これら 2 つの辞書中では、日本語を由来とする語の語源欄に *jap.* と記載されているので、*jap* をキーワードに全文検索を行うことで日本語由来の名詞を収集したところ、155 の異なり見出し語を収集することができた⁵。“*Dschodo*”, “*Jodo*” のように、綴りにゆれが生じていると考えられるものは、2 つ合わせて 1 つの見出し語、“*Haiku*”, “*Haikai*” のように元となった語がそれぞれ別の語と考えられる場合は、1 つの見出し語に同時に並べられている場合でも、それぞれ異なる 2 つの見出し語として数えている。

4. 調査・分析

この節では、3. で収集したドイツ語における日本語由来の名詞について、4.1. で性の比率を調査・分析し、4.2. で形態音韻の側面から、4.3. で意味の側面から、4.4. で音韻の側面から分析し、最後に 4.5. で 4.1. ~ 4.4. の内容全体から考察を行う。

4.1. 性の比率

古浦 (1990) で述べられているような日本語由来の名詞の基本的な性が、ドイツ語においても存在しているかどうかを検証するために、今回収集した日本語由来の名詞 155 語とドイツ語名詞一般⁶の性の比率を対比し、その結果を表 3 に示した。ドイツ語名詞一般では、男性・女性名詞に対して中性名詞の割合は大きくないのに対し、ドイツ語における日本語由来の名詞では、中性名詞の割合が 5 割近くと最も大きくなっている。この結果は、ドイツ語における日本語由来の名詞において中性はかなりの程度支配的であり、中性が基本的な性である可能性を示唆しているものであると言える。

4.2. 形態音韻の側面からの分析

卒業論文では、複合語、語末に「道」を持つ語、派生接辞・擬似派生語尾という 3 つの観点から分析を行ったが、本稿では紙面の都合上、語末に「道」を持つ語に関してのみ、以下の節で詳細に取り上げることとする。なお、複合語については、該当する 10 語の名詞

³ ドイツ語外来語辞典。見出し語数 55000 語以上。

⁴ ドイツ語大辞典。見出し語数 20 万語以上。

⁵ 複数の言語を経由しているものや、日本語とドイツ語の複合語なども数に含めている。

⁶ Duden (2007b) “*Deutsches Universalwörterbuch*” (ドイツ語汎用辞典。見出し語数約 15 万語、凡例などを除いた本文は、77-2016 の計 1940 ページ)より無作為に 40 ページを抜き取り、その中に記載された全ての名詞の集合をドイツ語名詞一般として扱った。

全てが基礎語⁷の性と一致し、派生接辞・擬似派生語尾については、性の決定と明確な相関は見受けられなかった。

4.2.1. 語末に「道」を持つ語

今回収集した日本語由来の名詞のなかで注目すべき点として、語末が-do で終わり、かつその-do が日本語において「道」と表されるものは、全てが中性名詞であることが挙げられる。該当するのは、Aikido「合気道」、Budo「武道」、Buschido「武士道」、Judo「柔道」、Kendo「剣道」、Kyudo「弓道」の6語である。この点より筆者は、日本語で「道」と表される-do が、ドイツ語において中性名詞をつくる接尾辞とみなされていると考えられるため、以下の節でこの仮説を検証していく。

4.2.1.1. 武術以外での「道」

語末に「道」を持つ6語のうち、Buschido「武士道」を除く5語が武術に関する語であり、また Dojo「道場」、Ju-Jutsu/Jiu-Jitsu「柔術」、Karate「空手」、Kenpo「拳法」、Randori「乱取り」、Sumo「相撲」などの、武術に関連する多くの語が、「道」で終わる語と同様に中性名詞であったため、語末の「道」が武術に関連する語で無くとも、性名詞の決定要因になっていることを確認するために、インターネットから用例を検索して検証する。

「道」で終わる日本語の名詞を yahoo!辞書⁸から収集し、ローマ字に直したものに定冠詞 der, die, das を付け、それぞれにつき google⁹で検索し例文を集めた。その結果、10語の語末に「道」を持つ名詞、14例の例文を収集することができた。表4にその10語と、例文中での性を示した。

10語のうち中性名詞が5語、男性名詞が3語、男性と中性とでゆれている名詞が1語、男性と女性とでゆれている名詞が1語という結果となった。語末に「道」を持つ語は中性名詞となるという仮説に対して、今回の調査における男性名詞の比率は無視できない大きさであると言える。ただし、男性と中性とで性がゆれている Chado「茶道」を除き、男性名詞となっている例は全て Kisokaido「木曾街道」のような具体的な道路としての「道」を指す例であり、その一方で、抽象的な意味での「道」は、先述の Chado「茶道」を含めて全て中性名詞となっている。従って、抽象的な意味での「道」を語末に持つ場合にのみ、その名詞が中性となると言える。ドイツ語には der Weg「道、道路」という名詞があり、具体的な道路としての「道」を指す場合は、その名詞からの意味的な類推が優先して働いていると思われる。加えて、武術に直接関連する語は10語中1語も確認されなかったため、以上の前提が正しいと仮定するならば、抽象的な意味での「道」を語末に持つ名詞は、武術に関連する意味であるかどうかとは無関係に中性名詞を持つと言うことができる。

⁷ 例えば die Haustür「玄関のドア」という複合語は das Haus「家」と die Tür「ドア」の2つの語から成り立っているが、このうち die Türの方を基礎語と呼ぶ。

⁸ <http://dic.yahoo.co.jp/> (2007/12/16) 使用する辞書は大辞泉に設定した。

⁹ <http://www.google.co.jp/> (2007/12/16)

4.2.1.2. 「道」以外の-do

語末の-do が日本語の「道」で表される場合に限り、中性名詞が割り当てられる傾向があることを検証するため、ドイツ語辞書から-do で終わる名詞を収集し、それらの語の性の比率を調査した。この調査では、逆引き検索が可能な『クラウン独和辞典 第3版』の電子辞書版 (CASIO Ex-word XD-R7100)を用いた。その結果、既に「道」が付く例として収集した Aikido, Judo, Kendo を除いた 18 語を収集できた。それら 18 語のうち、男性名詞が 6 語、女性名詞が 2 語、中性名詞が 9 語、記述が無く性不明のものが 1 語であった。結果として中性名詞が最も多くなったものの、9 語の中性名詞のうち 6 語が語末に-kommando を持つものであり、調査対象に偏りがあった故の結果とも言える。男性名詞と女性名詞も合わせて半分近くを占めているため、日本語で「道」で表されるかどうかに関係なく、-do で終わる語が中性名詞になりやすいとは必ずしも言えないと考えられる。

表 3: 性の比率

名詞の性	ドイツ語の中の日本語由来の名詞	ドイツ語名詞一般
男性名詞	51 (32.90%)	633 (33.76%)
女性名詞	26 (16.77%)	810 (43.20%)
中性名詞	73 (47.10%)	388 (20.69%)
男性か中性かでゆれている名詞	3 (1.94%)	10 (0.53%)
女性か中性かでゆれている名詞	2 (1.29%)	1 (0.05%)
男性か女性かでゆれている名詞	0 (0.00%)	3 (0.16%)
常に複数形で用いられる名詞 ¹⁰	0 (0.00%)	18 (0.96%)
記述が無く性不明	0 (0.00%)	12 (0.64%)
計	155 (100.00%)	1875(99.99%)

(%の数値は小数第3位四捨五入)

表 4: 語末に「道」を持つ語の性

Chado 「茶道」	男性/中性	Shodo 「書道」	中性
Kisokaïdo 「木曾街道」	男性	Shudo 「衆道」	中性
Nakasendo 「中仙道」	男性/女性	Shugendo 「修験道」	中性
Nikkokaïdo 「日光街道」	男性	Tokaido 「東海道」	男性
Omyyodo 「陰陽道」	中性	Zendo 「禅道」	中性

4.3. 意味の側面からの分析

この節では 3. で収集した日本語由来の名詞を主に意味の側面から分析していく。卒業論文では、1.1. の Wegener (1995) の Semantische Regeln 「名詞の意味に基づく規則」や、1.2.1. の古浦 (1990) などを参考に、意味上の性を持つ語、動作を表す名詞、武術・スポーツ、植物、工芸、食物・食品・料理、文学、衣料品、演劇・音楽・舞踊、絵画・印刷、建築物、階級、楽器、ゲーム・パズル、書名、金銭・通貨、乗り物、文字、その他、日本語由来の名詞かどうか疑わしい語といった 20 のカテゴリーに分けて分析を行っているが、本稿では

¹⁰ ドイツ語の名詞は複数形になると、どの性の名詞でも共通の冠詞や格変化を取るようになるため、性を判別できなくなる。

紙面の都合上、それらの中から代表して工芸に関する語を例に挙げる。卒業論文では他のカテゴリーに関しても、同様の手順で分析を行っている。

4.3.1. 工芸

工芸に関する名詞には、Chawan「茶碗」、Inro「印籠」、Kogo「香壺」、Makie「蒔絵」、Netsuke「根付」、Raku「楽焼」、¹Satsuma「薩摩焼」、Temmoku「天目」、Yaki「焼」の9語が確認された。この節ではそれらの名詞の性について分析する。なお、表5において、記号<<は右側の要因が左側の名詞の性の決定に影響していることを、記号<<<は右側の要因が左側の名詞の性の決定に影響していないことを表している。

表 5: 工芸に関する名詞

das Chawan	
das Temmoku	<< 焼き物(中性)
das Raku	
das Yaki	
das Inro	<< das Döschen「ふた付きの小さい容器」
das Kogo	<< das Dose「ふた付きの容器」
die Makie	<< 接尾辞 -ie[...iə](女性)
	<< die Dekoration「装飾、飾り」
die Netsuke	<<< der Knopf「ボタン」
	<< 擬似派生語尾 -e(女性)

das Chawan「茶碗」、das ¹Satsuma「薩摩焼」、das Temmoku「天目」、das Raku「楽焼」、das Yaki「焼」といった、いわゆる焼き物を表す名詞は全てが中性名詞であり、この類の名詞には中性名詞が割り当てられやすい傾向があると言える。das ¹Satsuma「薩摩焼」に関しては、中性名詞を導く接尾辞 -ma の影響である可能性も考えられる。

das Inro「印籠」、das Kogo「香壺」については、Duden (2007a)ではそれぞれ das Döschen「ふた付きの小さい容器」、das Dose「ふた付きの容器」という語によって説明されており、それらの語の影響によるものと考えられる。

die Makie「蒔絵」については die Dekoration「装飾、飾り」という名詞か、女性名詞を導く接尾辞-ie[...iə]による影響によるものと考えられる。die Netsuke「根付」については、意味の類似する der Knopf「ボタン」という語とは、性が一致しておらず、女性名詞となった要因は擬似派生語尾 -e しか見受けられなかった。

4.4. 音韻の側面からの分析

Wegener (1995)の Phonologische Regeln「音韻に基づく規則」では、単音節の名詞は男性名詞が多いとされている。今回収集した日本語由来の名詞のうち、単音節の名詞は8語確認されたが、男性名詞であったのはそのうち4語であった。また、それらの4語は、意味的な要因から男性名詞に決定されている可能性も考えられるため、日本語由来の名詞におい

てこの規則はそれほど有効に働いていないと言える。

例: der Dan「段」 << 単音節(男性)
 der Kyu「級」 << der Grad「階級」

4.5. 考察

以上の調査・分析の結果として、日本語由来の名詞の性は主としてその意味によって決定されており、ドイツ語一般の傾向とは異なり、形態音韻、音韻が名詞の性に及ぼす影響は大きくないということが言え、加えて、抽象的な意味での「道」を語末に持つ名詞には中性が割り当てられるという規則を発見することができた。また、4.1.の調査では、ドイツ語における日本語由来の名詞において中性がかなりの程度支配的であるという結果が現われており、形態音韻・意味・音韻の要因とは別に、日本語由来の名詞全体の傾向として中性名詞を割り当てられやすいという可能性が考えられる。

以上の考察を踏まえ、ドイツ語における日本語由来の名詞の性が決定される際に大きく影響する要因の階層性を図1に表した。上にあるものほど、適用される優先度が高いことを示している。

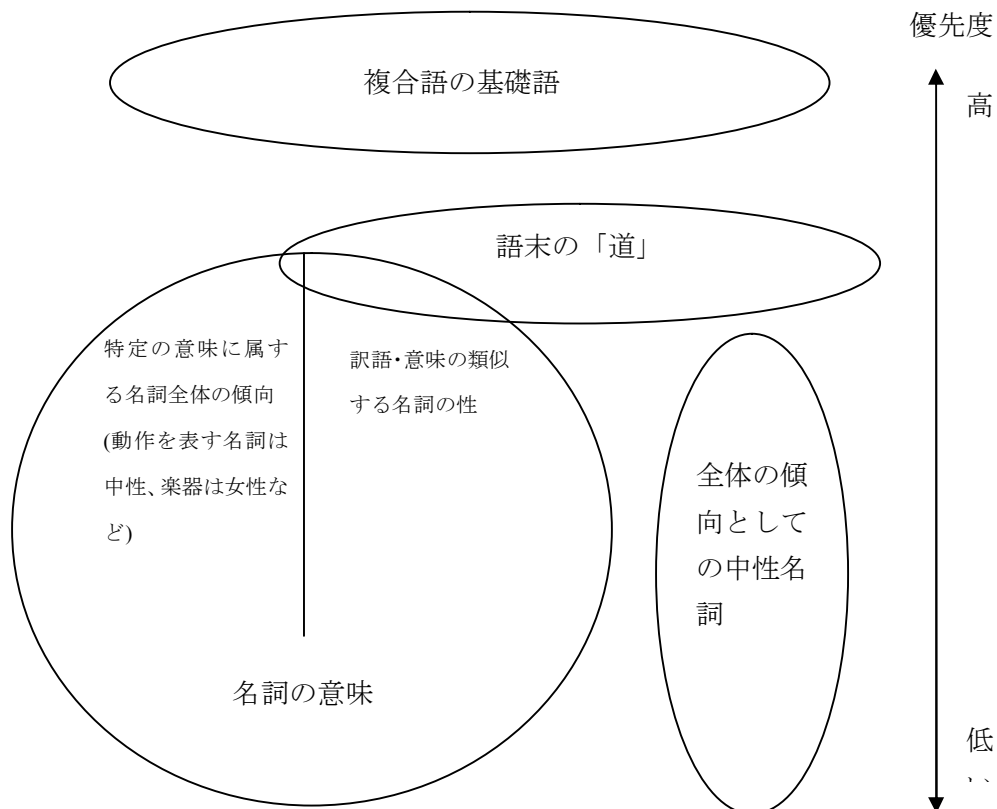


図1: ドイツ語における日本語由来の名詞の性の決定要因の階層性

5. おわりに

本論文では、田中 (2005)の行ったドイツ語における日本語由来の名詞の分析をさらに進め、性が決定される要因に関して整理することができた。特に、日本語由来の名詞にはドイツ語一般と比較して中性名詞の割合が大きいという事実や、語末の「道」に関する規則は重要な発見であったと思われる。ただし、名詞の意味の分類が筆者の主観によるものとなってしまったことや、日本語以外の外来語の傾向と対照できなかったことなど、反省点も残るため、それらの点を今後の課題としていきたい。

参考文献

- Duden (2001) *Bd. 9, Richtiges und gutes Deutsch*. Mannheim: Duden
____ (2005a) *Bd. 4, Die Grammatik.*. Mannheim: Duden
Wegener, Heide (1995) *Die Nominalflexion des Deutschen – verstanden als Lerngegenstand*.
Tübingen: Niemeyer
- 古浦敏生 (1990) 「イタリア語における日本語からの借用語 - その性(genere)をめぐって - 」
『広島大学文学部紀要』特輯号 2: 1-91 広島大学文学部
- 田中雅敏 (2005) 「ドイツ語の名詞の性割り当て規則: ドイツ語に取り入れられた日本語由来の名詞の性をみる」『欧米文化研究』12: 133-150 広島大学大学院社会科学研究所
国際社会論専攻
- 橋本郁雄 (1989) 「ドイツ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第2巻 世界言語編(中)』東京: 三省堂 所収

資料

- Duden (2005b) *Das große Wörterbuch der deutschen Sprache 10 Bände auf CD-ROM*. Mannheim:
Duden
____ (2007a) *Bd.5, Das Fremdwörterbuch Buch und CD-ROM*. Mannheim: Duden
____ (2007b) *Deutsches Universalwörterbuch*. Mannheim: Duden
- 信岡資生ほか編 (2002) 『クラウン独和辞典 第3版』東京: 三省堂
- google <http://www.google.co.jp/> (2007/12/19~2007/12/21)
Yahoo!辞書 <http://dic.yahoo.co.jp/> (2007/12/16)